

# 大阪民衆史研究会報

2024年9月号  
第31巻第9号  
(通巻348号)

発行 大阪民衆史研究会 (代表 林 耕二)

## 例会等のお知らせ

◇大阪民衆史研究会 2024 年度総会 (9月1日を台風のために延期)  
日時 9月22日 (日) 午後1時半開場 2時開会 府教育会館 2F 鈴蘭の間

第一部 記念講演 午後2時開会

第二部 総会 午後3時半開会

記念講演 高島千代さん (副会長・関西学院大学法学部教員)

「秩父事件 140 年を迎えて—『革命』と『一揆』のあいだ」

今からちょうど 140 年前、1884 (明治 17) 年の 10 月末日、埼玉県の西方、秩父盆地では、松方デフレのもと、高利貸しに対する負債をかかえた養蚕農民たちが武装し、金貸会社を襲撃しました。これが、世にいう「秩父事件」のはじまりです。その後、自由党员を含む 3000 余名の農民たち (「秩父困民党」) は、秩父郡下吉田村 (現在の秩父市) の棕神社に集合し、そこから周辺町村の高利貸を打毀し、戸長役場に乱入して帳簿類を破棄、さらには警察署・裁判所を襲撃し秩父郡役所を占拠。その運動は 11 月 9 日、信州で軍隊に鎮圧されるまで続きました。秩父事件については、これまで「革命」から「百姓一揆」まで様々に位置づけられ、自由民権運動との思想的な関係が問われ続けてきましたが、140 年目の今、秩父困民党に集った人々が何を思い、武装蜂起を選択したのか、改めて考えてみたいと思います。(記念講演《冒頭》には非会員でも参加できます。)

## ◇ 10 月例会

日時 10月13日 (日) 午後1時半開場、2時開会 府教育会館 3F 桜の間  
報告 近江八千代さん

「泉州繊維労働者のたたかひの先頭に立って闘ったある女子工員の半生」

近江八千代さんは因島出身の両親のもと、港区市岡に生まれた。昭和 20 年代に泉州の紡績会社に勤め、そこで女子労働組合を結成する。劣悪な労働条件の改善に取り組む中で、丸三敷布女子労働組合執行委員長となり、諸要求の実現を勝ち取っていた。退職後も地域の民主的な活動に従事し、90 歳を超えて元気に活躍している。

参加費は会員 400 円、非会員 500 円